



小児がんセンターたより

小児がんセンター長新任のご挨拶

外科の北河徳彦と申します。今回、副院長に就任した後藤裕明の後任として小児がんセンター長を務めることとなりました。

神奈川県立こども医療センターが小児がん拠点病院に指定され、小児がんセンターが発足して4年が経過しました。私は小児がんの手術が専門ですが、小児がんの治療は専門医一人が頑張っても太刀打ちできるのではなく、各診療科の連携、きめ細かな看護、こどもの発達、就学、ご家族の支援等まで含めた総合的な医療の提供が必要です。それまでも、こども医療センターでは各部門の連携がよく取れておりましたが、小児がんセンター発足後は定期的に多職種の会議を持ち、事務室も整備され、チームとしての力が十分に発揮できる体制ができあがってきました。また各種のセミナー、講演、イベントも随時開催し、拠点病院の名に恥じない活動ができるよう、関係職種一丸となつてがんばっています。

これからも温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

小児がんセンター長 北河 徳彦

市民公開講座を行いました

平成 31 年 3 月 2 日（土）、TKP ガーデンシティ横浜にて、第 4 回小児がん市民公開講座を開催しました。小児や AYA（思春期・若年成人）世代のがん患者には、その治療により、妊孕性（妊娠するための能力：妊娠するために必要な臓器・配偶子・生殖機能）に影響を受けるものがあります。これについては、患者視点にたった生殖機能温存に関する情報提供や相談体制が必要であるとも言われています。今回は、女性の妊孕性について、聖マリアンナ医科大学 産婦人科医師の高江正道先生から、男性については、獨協医科大学埼玉医療センター リプロダクションセンター統括者である 泌尿器科医師の岡田弘先生から講演をいただきました。詳細は HP をぜひご覧ください。

<http://kcmc.kanagawa-pho.jp/shounigancenter/index.html>

【研修会などのお知らせ】

6月19日（水）小児がん栄養サロン 14:00～15:00

7月4日（木）小児緩和セミナー 18:00～19:00

7月25日（木）小児がん在宅ケア研修会 18:30～

8月10日（土）夏の小児がんイベント（子ども向け）

詳しくは、ホームページでご確認ください。



小児がん相談支援室 情報コーナー



希少がんである小児がんは、全国どこの病院でも治療ができる、という状況ではないこともあるので、治療を受けるために、遠方から来院している子どもや家族もいます。そんな子どもや家族のうれしい味方が『リラのいえ』です。患者・家族滞在施設(ファミリーハウス)として、多くの利用者にとって、とてもこころ温まる場所となっています。外泊や退院でお家に帰りたけれど、お家が遠くて今はちょっと難しい・・・けれど病院から出られるといいな～、という家族も利用しています。たくさんのボランティアさんの協力を得て、子どもの笑顔のため、家族を支えて下さっています。

是非 HP ものぞいてみて下さい

<http://lilanoie.jp/>



小児がんに関連したご相談は

「小児がん相談支援室」(本館 1 階 7 番窓口) までご連絡ください

時間：平日(月～金) 8:30～17:15

相談方法：面談・電話・メール

電話：045-711-2351 E-mail：shounigan@kcmc.jp

各部門からのお知らせ～脳神経外科～

2017年に神奈川こども医療センターの脳神経外科に赴任し2年になるうとしています。今回で3度目の勤務です。初回は1990年に1年間、2回目は脳神経外科医長として1998年から2007年までの10年間です。

1980年代、悪性脳腫瘍の治療は手術と放射線照射が主体で、化学療法は今ほど有効ではありませんでした。脳外科医は化学療法の副作用である骨髄抑制への対応に慣れていなかったため、強力な化学療法はできませんでした。

1990年、白血球をゼロにするような強い化学療法を脳外科で初めて施行することになりました。当時、白血病では当たり前の治療法だったので、気賀沢血液科部長（故）のご指導のもと、小児悪性脳腫瘍に対する自家骨髄移植を用いた大量化学療法にチャレンジしました。3歳児の脳外科主治医として、旧5東病棟で個室を目張りしてクリーンルームを作って開始しました。悪性腫瘍は初回治療できれいに消失しましたが、再発に備えた維持化学療法はなかなかうまくいきませんでした。

その後、手術後の治療を小児がん治療専門の血液腫瘍科スタッフが主体となって施行して下さるようになり治療成績は向上しました。さらに、私が久しぶりに戻った脳脊髄腫瘍化学療法の現場では、後藤血液腫瘍科部長のもと、目を見張るばかりの好成績を得ていることに驚きました。

私が手術に携わった子供たちは、高校生・大学生になっています。10数年ぶりに再会すると当時の童顔を思い出します。自立度が不十分だった子供達はそれぞれに成長していますが、親御さんと私はずいぶん年をとりました。また、こども病院から一般病院へ成人移行した患者さんをカルテで見つけると元気に巣立ってくれたことを知り嬉しくなります。

今年度から、林朋子、広川大輔に加え、福山龍太郎が加わり4人医師体制となりました。今後も小児がん拠点病院としての重責をしっかりとって参りたいと思います。

